

# 北海道環境白書 '22



<表紙写真>

## 狩場茂津多道立自然公園 窓岩

狩場茂津多道立自然公園は、昭和47年（1972年）6月に開園し、令和4年（2022年）で50周年を迎えました。

道南の最高峰・狩場山を中心とする山岳地域と日本海沿岸の海蝕海岸からなる公園で、山間部には滝・溪流・瀬などが点在し、山麓部に広がる原野と周辺の森林が調和した神秘的で美しい景観をつくりあげています。

また、海岸部は、激しい波浪により形成された急峻な海蝕崖・岩礁などにより、変化に富んだ景観となっており、なかでも、窓のような空洞を開け、緑の丘を背景に海面に立つ窓岩は印象的です。この窓を通して見る落日や夕焼けは絶景です。

<裏表紙>

## 道内の動物たち（熊、鹿、アザラシ、タンチョウ）

令和4年（2022年）3月に「北海道ヒグマ管理計画」、「北海道エゾシカ管理計画（第6期）」、「北海道アザラシ管理計画（第3期）」をそれぞれ策定し、人間活動のバランスに配慮しながら、将来にわたって生物多様性が損なわれることのないよう適正な保護管理を計画的に推進するため、野生鳥獣の保護管理施策の展開を図っています。

---

環境白書についてのお問い合わせは、北海道環境生活部環境保全局環境政策課へご連絡ください。

T e l 011-231-4111（代表） 内線24-204

011-204-5187（直通）

F a x 011-232-1301

U R L <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ksk>

E-Mail [kansei.kankyoushou@pref.hokkaido.lg.jp](mailto:kansei.kankyoushou@pref.hokkaido.lg.jp)

---

# 環境白書の刊行に当たって



北海道は雄大で変化に富む山々、広大な森林や湿原、湖沼等による美しい大地とそこに暮らす野生生物などの豊かな自然環境に恵まれており、これらは本道の主要な産業である農林水産業はもとより世界に誇る「食」や「観光」を支える基盤となっています。

しかし、近年、世界各地で異常気象による災害が発生するなど、気候変動の影響が顕在化し、本道においても平均気温の上昇や降雪量の減少などが見られ、こうした気候変動は豊かな自然や私たちの生活に大きな影響を与えることが懸念されています。

このため、道では、本年3月「北海道地球温暖化対策推進計画（第3次）」を改定し、2030年までに温室効果ガス排出量を「2013年度比で48%削減」することを中期目標として掲げ、豊かな再生可能資源や森林等のポテンシャルを活かし、環境と経済・社会が調和しながら発展する「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、全庁一丸となって、脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルへの転換、エネルギーの地産地消の展開、吸収源対策などの取組を重点的に推進しています。来年には、G7サミットに係る気候・エネルギー・環境大臣会合が札幌市において開催される予定であり、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて大きな弾みとなることが期待されます。

また、プラスチックごみによる海洋汚染が国際的な課題となる中、本年4月には、プラスチック使用製品の製造から廃棄に至るまでのあらゆる段階で資源循環を促進する「プラスチック資源循環促進法」が施行されたところであり、道では、市町村や事業者と連携しながら、プラスチックの資源循環を促進するとともに、道民の皆様への意識向上やプラスチックごみ削減に向けた実践行動の定着を目指して取り組んでいます。

このほか、本年3月には、「北海道立自然公園条例」の一部を改正し、道立自然公園の価値をさらに高め持続的に活用できるよう、地域主体で行われる利用拠点整備や自然体験活動促進の取組を促す仕組みを設けたほか、「北海道エゾシカ管理計画（第6期）」及び「ヒグマ管理計画（第2期）」を策定し、エゾシカの適正な管理やエゾシカ肉の有効活用の推進、ヒグマによる人的被害の防止や農業被害の軽減を図ることとしたところであり、野生動物とのあつれきを軽減しながら、生物多様性の確保や自然環境の保全に向けた取組を進めてまいります。

本道の環境を取り巻く状況や道の施策などを取りまとめた本書が、皆様の環境保全に対する理解を深め、具体的な行動への後押しとなることを心から願っております。

令和4年（2022年）12月

北海道知事 鈴木 直道